

1. はじめに

10月に入り秋から冬への移ろいを感じる季節となった。RHITに来てから約2か月が過ぎ、ようやく勉強と自由時間にメリハリをつけた生活を送ることができるようになってきた。今月は、テストの実施や中間成績の発表、プレゼンテーションが行われ、何かと忙しい1か月となった。また一方で、学内では多くのイベントが行われ、アメリカの文化や生活を知る良い機会となった。

2. 授業

前回に引き続き、以下の科目の授業内容を示す。

① BIO110: Cell structure and Function

今月は、DNA複製や有糸分裂、減数分裂などの遺伝子分野について学んだ。また、10月初旬と下旬にテストが行われた。実験に関しては、電気泳動を行って選別したDNAに、目的遺伝子をプラスミドベクターに組み込み、目的の形質転換体を選択するためにアンピシリン耐性培地を用いた青白判定を行った。このベクターの実験は工大でも行っていたため、スムーズに班員と実験を行う事ができた。一方で青白判定実験は、授業で学んだだけで工大では行わなかったため、実際に実験し、手法を学んだり原理を再度理解する良い機会になった。

② ESL101: Reading and Writing

エッセイ内での比較や類推の効果的な書き方について学んだ。日本のエッセイなどに比べ、英語でのエッセイにはこれらの手法が多く使われ、自分の意見や文章内の主旨がより強調されている気がする。また、パラフレーズや論文の引用についての決まりを学んだ。アメリカの大学では、日本よりも剽窃に対しての見解が厳しく、レポートや論文を書く際には注意を払わなければいけない。

③ ESL111: Listening and Speaking

NPR (National Public Radio) やTED talk を利用した聞き取りや、ディスカッションが多かった。またクラス内では、ペアワークとして図形について数学用語を用いてのプレゼンテーションを行ったが、数学用語を覚えること、また数式や問題についてわかりやすく説明するのにとても苦労した。また来月にある最終プレゼンテーションのため、Radio club のアドバイザーにインタビューを行った。

④ CHEM330: Biochemistry I

来学期に履修する予定のBiochemistry IIのために、教授からあらかじめこの科目を聴講することを勧められた。途中からではあるが授業に参加し、来期の授業に備えている。内容は、3年時に履修した「生化学」に似ており、現在は解糖経路などについて学んでいる。Biology科目よりも、より細かく分子や化合物について学んでいる。

3. イベント

RHIT では、工大に比べると学内で行われるイベントが多い。その中で、参加したいいくつかのイベントを紹介する。

3.1. Homecoming and Bomfire

ホームカミングは、アメリカの伝統的な大学もしくは高校の行事の一つである。年に一度卒業生が母校を訪れ行う、同窓会のようなものでもある。学内には模擬店や、展示などがあり、日本の学園祭を思い起こさせるものであった。またホームカミングで行われるフットボールは、1つの名物詞となっている。またホームカミングの前日に行われた Bomfire は、新入生が4人がかりで積み上げた薪に火を着けるキャンプファイヤーのようなものである。100mほどの至近距離からは花火も上がり、少々驚いたが日本では経験できない良い思い出となった。



図1 Bomfire

3.2. Fall break

10月中旬に、Fallbreak と呼ばれる4日間の休暇があった。その際に、ドイツとスペインからの交換留学生とともに、2泊3日のシカゴ旅行に行ってきた。シカゴは隣のイリノイ州に位置しており、RHITのあるテレホート市から車で約4時間半の道のりである。ミレニアムパークや博物館などをめぐることができ、いい息抜きとなった。



図2 ミレニアムパーク

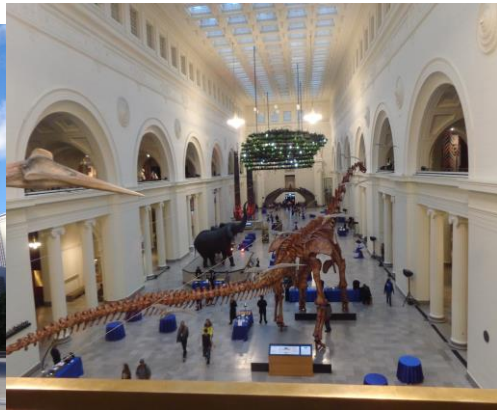


図3 フィールド自然博物館

3.3. Halloween

ハロウィーンはアメリカを代表する行事の18世紀にアメリカに渡ったアイルランド系移民がもたらしたと言われている。今年は、水曜日で週の真ん中だったため、学内での公式的な行事はなかったが、前週に寮で行われたハロウィーンパーティーに親友とともに参加した。みんな思い思いの仮装をして楽しんでいるようだった。また当日には、仮装してくる教授や生徒、食堂の飾りがハロウィーン風になるなど生活の一部として浸透していることが窺えた。またESL111の課題でハロウィーンについてアメリカの学生に質問したところ、「最近のハロウィーンはステレオタイプ化していて、子供は仮装をしてお菓子をもらう。大人は仮装をしてお酒を飲む。本来の意味合いが薄れてきている」といった意見が挙げられた。

4. クラブ活動

先月に比べ、授業の課題が多くクラブ活動には2、3回ほど参加できなかった。他の学生を見ていると、複数のクラブを掛け持っている学生が多くいるようだ。時間管理をうまく行いながら、参加していきたいと思う。

5. 「アメリカにおける日本の発酵食品に対する認識への調査」

未だに学生にたいいていアンケート調査などができていない。しかしながら、多くの学生から日本食について尋ねられたり、食文化について話す機会があった。また、近隣のスーパーにたびたび赴くが、日本食、特に発酵食品の品数は極端に少ない。これらの現状をふまえて、アンケートを作成し認識調査をしていきたいと思う。

6. 最後に

ELS101の授業の中で、Japanese communication と Western communication の違いについての文章を読む機会があった。例えるならば、日本式の会話は相手のターンが終わるまで埋位ある「ボーリング」のような会話、一方で欧米式の会話は「テニスやバレーボール」のような相手とのボールのやり取りをするような会話であると述べられていた。未だに、会話スタイルの違いに慣れないところもあるが、自分が積極的に話しかけ、慣れていきたいと思う。

以上で、10月の派遣留学報告書とする。